

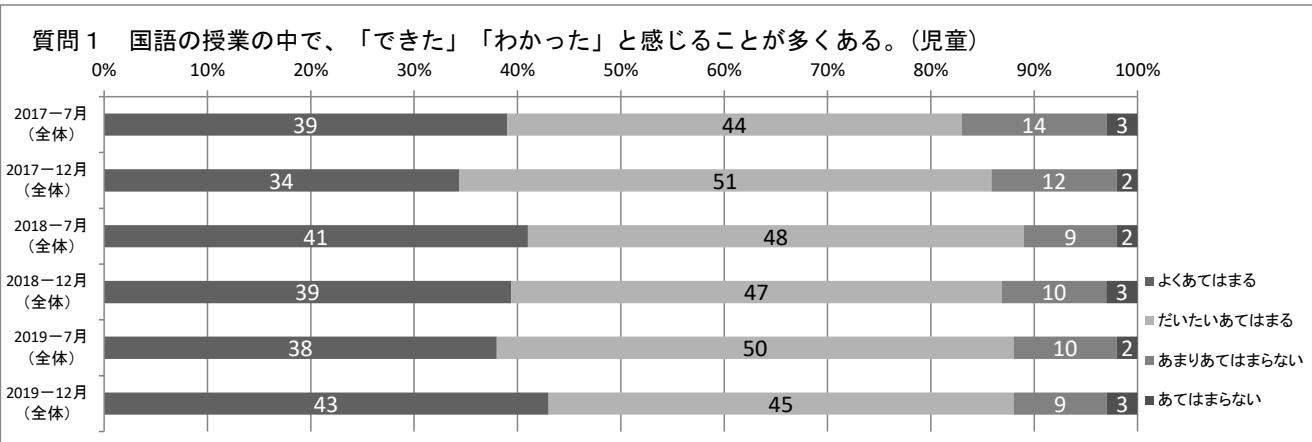
学校全体 結果

① 学校全体の経年変化 (児童)

- H29(2017)年 7月
- H29(2017)年 12月
- H30(2018)年 7月
- H30(2018)年 12月
- R1 (2019)年 7月
- R1 (2019)年 12月

大阪市立南津守小学校

学校全体の経年変化



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上:取組内容①

【年度目標】小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。等…

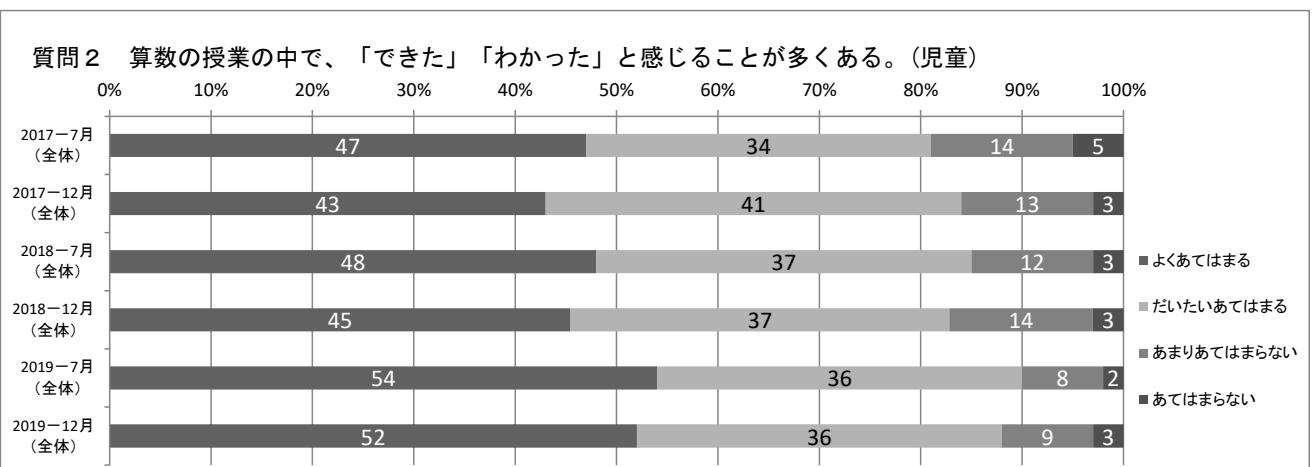
【取組】児童の学習意欲と漢字の定着を図るために、各学期末に南津守小学校独自で作成した「南津守漢字検定」に取り組む。

【指標】児童を対象に、漢字に関する校内アンケートを年2回（5月・2月）を行い、漢字に対して肯定的な回答をした児童の割合を向上させる。

《結果の概要》

国語科の授業を通して向上を図る項目である。年度目標達成の判断は、結果として学力が向上したかどうかである。

肯定的な回答割合は88%であり、前回7月や昨年度の割合とほぼ同じであるが、Aの割合は増加している。学年別の結果では、低学年、高学年でAの割合が増加していた。



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上:取組内容②

【年度目標】小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。等…

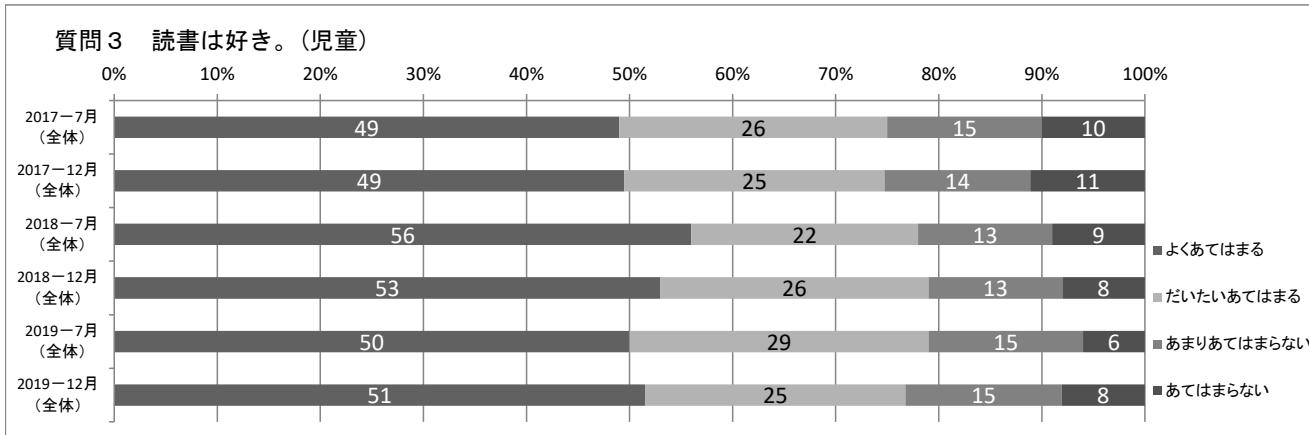
【取組】児童自らが課題を見つけ、授業や宿題以外でも意欲的に学習に取り組む習慣をつくり、各学年に応じた家庭学習を推進する。

【指標】児童を対象に、家庭学習に関する校内アンケートを年2回（5月・2月）を行い、家庭学習に対して肯定的な回答をした児童の割合を向上させる。

《結果の概要》

今回の調査で肯定的な回答割合は88%であった。前回より2%減少しているが、昨年度、一昨年度の結果と比較すると向上傾向にあるといえる。

学校全体の経年変化



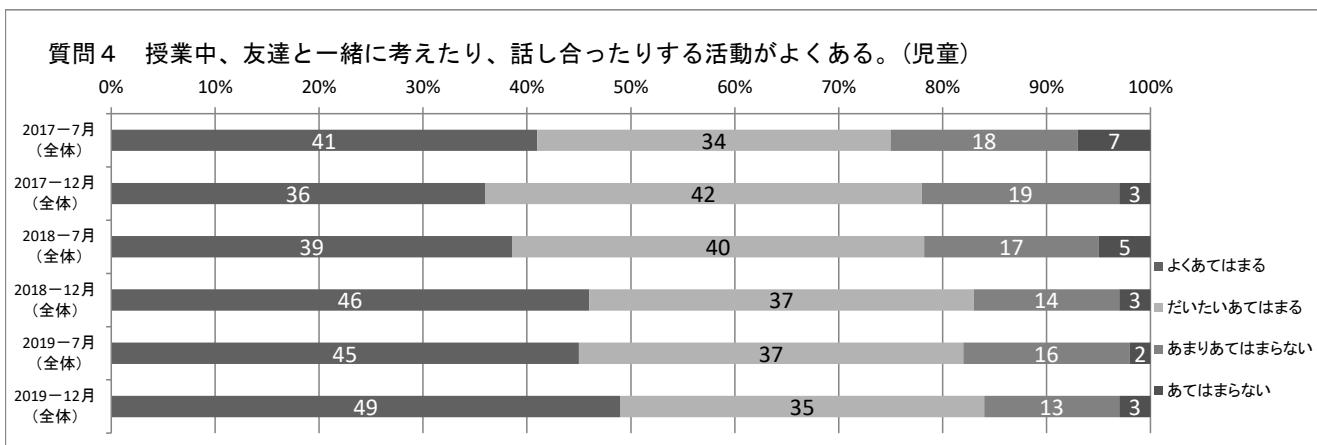
《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上： —

ここ2年ほど運営に関する計画の目標には挙げていないが、ここ数年継続的に取組を進めてきた項目である。

《結果の概要》

肯定的な回答割合は76%であり、前回より+3%となった。今後も学級での働きかけと、学校全体での取組を継続していく。



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上:取組内容③

【年度目標】小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より向上させる。

【取組】児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導者の授業改善を目的とした研究を進める。単元内における形成的評価を取ることにより児童の変容を掴み、指導者の効果的な働きかけの在り方を捉える。

【指標】・「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」に関する意識調査を年2回(5月・2月)に実施し、学習に対する意識を向上させる。

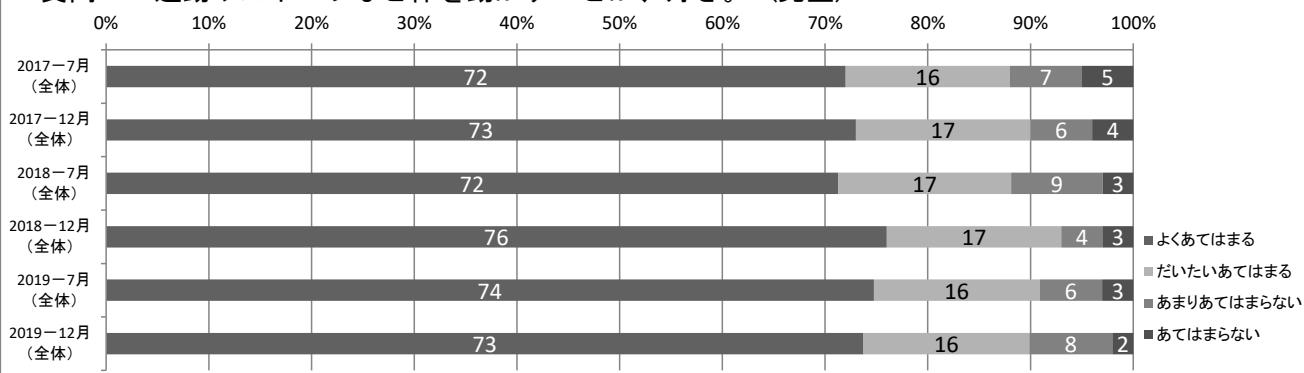
《結果の概要》

授業中の多様な学習形態の在り方が反映される項目である。今回の結果では肯定的な回答割合が84%であり、経年変化で見ると徐々に向上しているといえる。

今後は、より多くの児童が「Aよくあてはまる」と回答できるよう、学習形態だけでなく、対話の質を向上させる学び手立てを考えていきたい。

学校全体の経年変化

質問5 運動やスポーツなど体を動かすことが、好き。(児童)



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上:取組内容⑤

【年度目標】全国体力・運動能力、運動習慣等調査種目の体力合計点の向上を図る取組として、各学年の児童の課題に応じた「体力向上プラン」を設定し、3学期に実施する学年重点種目では当該学年の全国平均値を上回るようにする。
 【取組】新体力テストの結果を分析し、各学年の課題に挙がった重点種目の能力を向上させるために、各学年の「体力向上プラン」を作成し、体育科授業の充実や外遊びの工夫を進めていく。
 【指標】各学年の課題に挙がった重点種目を3学期に再度測定し、当該学年の全国平均値より向上させる。

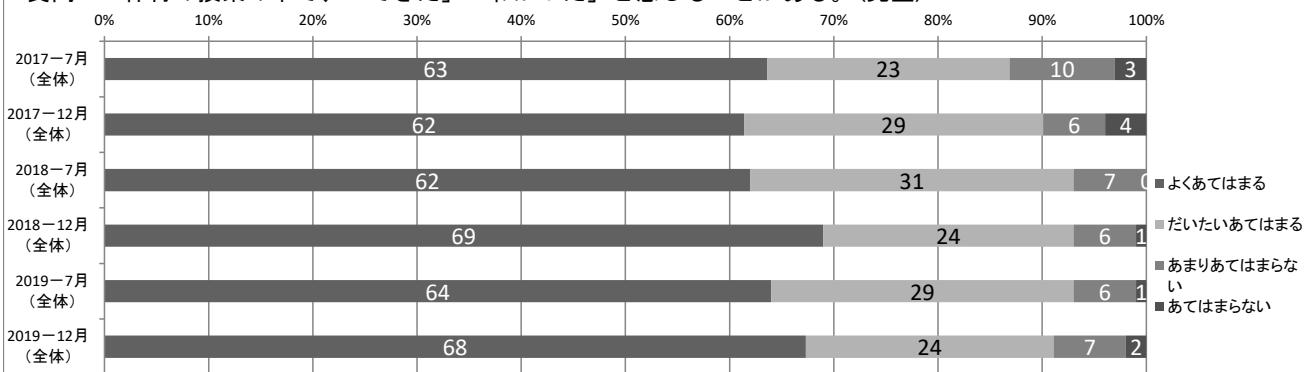
《結果の概要》

肯定的な回答は89%である。

すべての子どもに「運動に親しむ力」を育むため、今後も体育科の授業を中心に、様々な手立てを考えていきたい。

(今年度の運営に関する計画では、直接関連する項目は設定していない)

質問6 体育の授業の中で、「できた」「わかった」と感じることがある。(児童)



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上:取組内容⑤

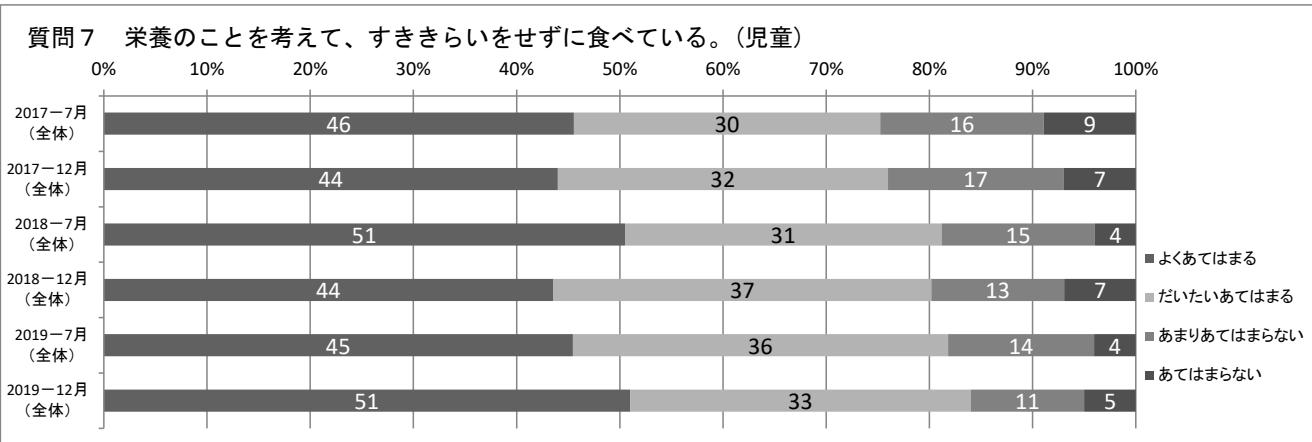
【年度目標】全国体力・運動能力、運動習慣等調査種目の体力合計点の向上を図る取組として、各学年の児童の課題に応じた「体力向上プラン」を設定し、3学期に実施する学年重点種目では当該学年の全国平均値を上回るようにする。
 【取組】新体力テストの結果を分析し、各学年の課題に挙がった重点種目の能力を向上させるために、各学年の「体力向上プラン」を作成し、体育科授業の充実や外遊びの工夫を進めていく。
 【指標】各学年の課題に挙がった重点種目を3学期に再度測定し、当該学年の全国平均値より向上させる。

《結果の概要》

肯定的な回答は92%である。

児童が「できた」「わかった」を実感するためには、教材研究、めあてやふりかえりの提示、指導中の言葉掛け等の授業準備は必要不可欠である。今後も「Aよくあてはまる」の割合を増加させてていきたい。

学校全体の経年変化



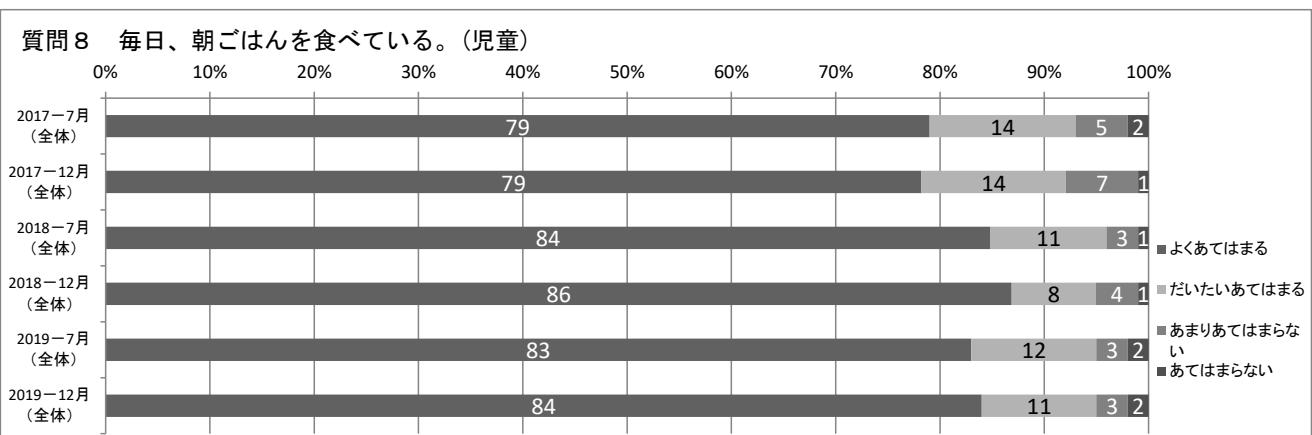
《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上： —

運営に関する計画の目標および取組内容には掲げていないが、給食委員会による毎日の放送や、栄養指導など、継続して重点的に取り組んでいる項目である。

《結果の概要》

肯定的な回答割合は84%であり、これまでで最も高い結果が出ている。
今後も日々の給食指導に加えて、栄養指導を通して食に関する知識や理解を高めていきたい。



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上：取組内容④

【年度目標】校内調査等の結果から、基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）について肯定的な回答をする児童の割合を前年度より向上させる。

【取組】「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。児童・家庭への働きかけ方を工夫し、継続的に取り組んでいく。土曜参観などをを利用して、家庭との連携を高める。

【指標】

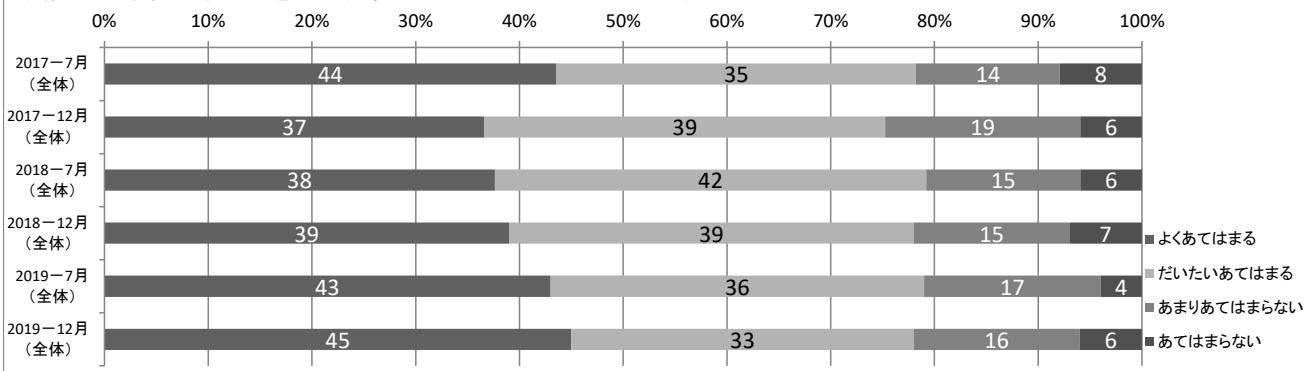
- ・週に1度、終わりの会で子どもたちの実態調査を行う。
- ・月に1回、各種たより等で家庭へも情報を発信していく。

《結果の概要》

肯定的な回答は95%であり、高い割合である。年度目標に掲げた「前年度より向上」は、僅かではあるが上回ることができている。
保護者への調査でも、肯定的な回答は同じ95%であった。
これまで、毎週の教室チェックを通して朝ごはんの大切さを伝えてきた。早寝、早起きの取組と同様に、今後も児童・保護者への働きかけを継続していく。

学校全体の経年変化

質問9 早寝・早起きをして、規則正しい生活ができる。(児童)



《運営に関する計画との関連》

▶ 学力・体力の向上:取組内容④

【年度目標】校内調査等の結果から、基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）について肯定的な回答をする児童の割合を前年度より向上させる。

【取組】「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを伝えていく。児童・家庭への働きかけ方を工夫し、継続的に取り組んでいく。土曜参観などを利用して、家庭との連携を高める。

【指標】

- ・週に1度、終わりの会で子どもたちの実態調査を行う。
- ・月に1回、各種のより等で家庭へも情報を発信していく。

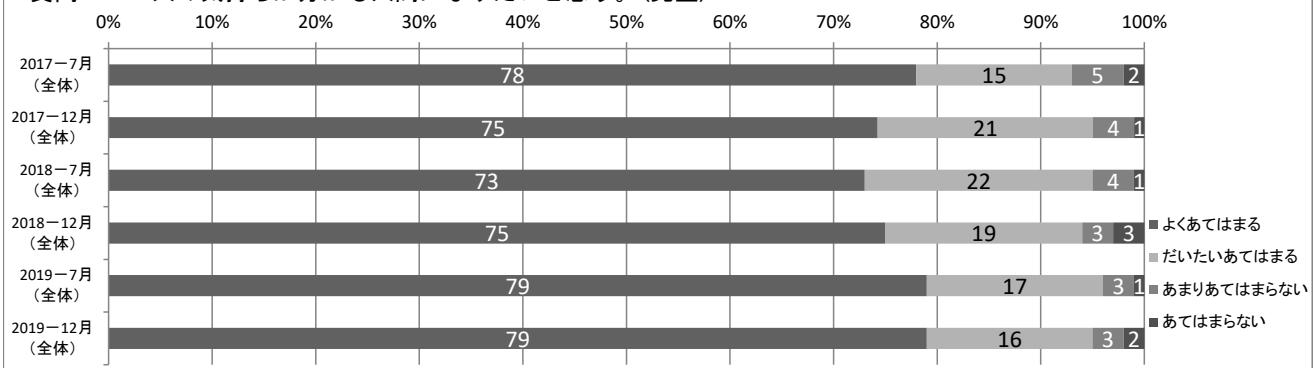
《結果の概要》

肯定的な回答の割合は78%である。保護者アンケートでは、肯定的回答が76%であり、児童の回答とほぼ同じ割合である（保護者回収率は約83%）。

年度目標は、前年度より向上させることである。肯定的割合は前年度と同じであるが、Aの割合が+6%増加しているのはよい傾向である。

今年度は、毎週の教室チェック、各種たよりでの啓発、外部講師による睡眠教育をテーマにしたPTA講演会（土曜授業）、早寝早起きデザイン募集、総合的な学習の時間（5年）での健康教育の実践等、これまで様々な取組を実施している。

質問10 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。(児童)



《運営に関する計画との関連》

▶ 安心・安全な社会の実現:取組内容⑥

【年度目標】校内調査等の結果から、「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立ちたい」と考える児童の割合を90%以上にする。

【取組】地域の実態に根差した人権教育の研究を進め、「人の気持ちがわかる人間になりたい」と考える児童の育成を図る。

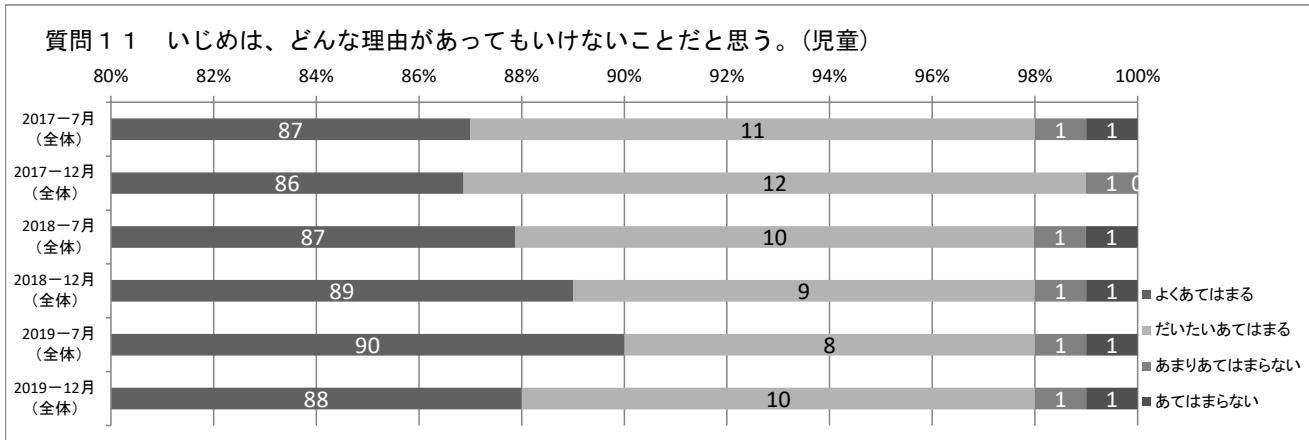
【指標】授業公開を各学年で年間1回以上行う。また、人権教育校内研修会を年間1回以上行う。

《結果の概要》

肯定的な回答割合は95%で、前回とほぼ同じである。

このアンケート結果では、90%以上という年度目標を達成している。

学校全体の経年変化



《運営に関する計画との関連》

▶ 安心・安全な社会の実現:取組内容①

【年度目標】年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

【取組】いじめアンケート調査を児童向け・保護者向けに実施し、いじめの早期発見に努める。発見した場合は解消までの経過を確認する。また、定期的に生活指導部会を開き、児童の実態把握に努める。

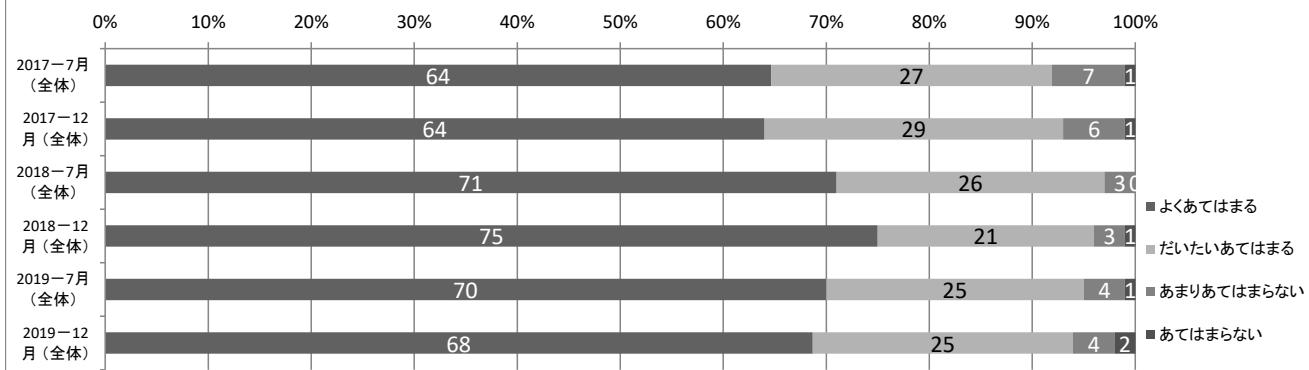
【指標】生活指導部会を毎月、児童対象いじめアンケート調査・いじめ対策委員会を年3回（7・11・12月）、保護者対象いじめアンケート調査を年1回（12月）実施。

《結果の概要》

グラフは80%以上を表示している。

肯定的回答割合は98%であり、これまでの調査と変わりない。「Cあまりあてはまらない」「Dあてはまらない」と回答した児童は、学校全体で9人である（前回より-2人）。

質問12 自分から「おはよう(ございます)」「ありがとうございます(ございます)」などのあいさつをしている。(児童)



《運営に関する計画との関連》

▶ 安心・安全な社会の実現:—

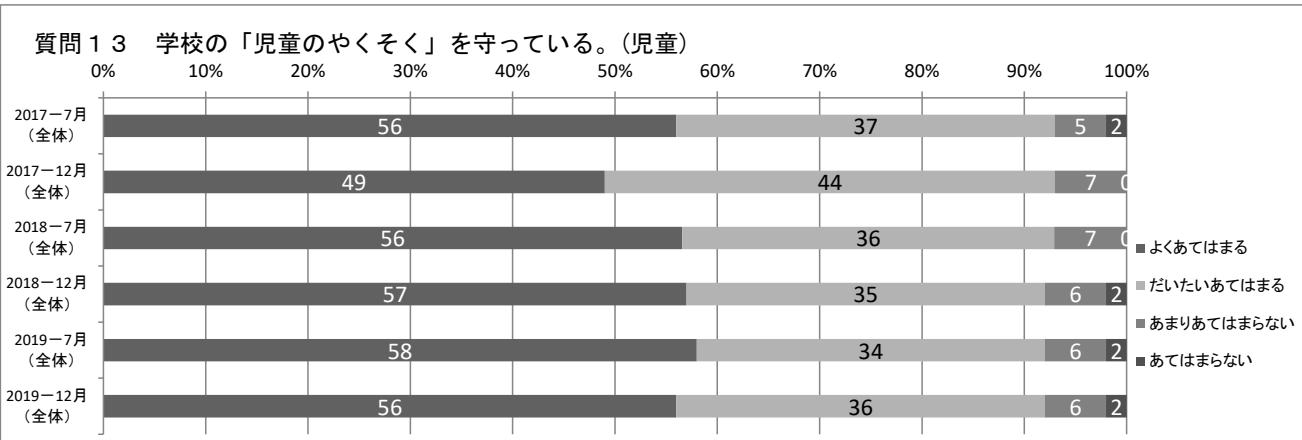
昨年度までは継続して「運営に関する計画」にあいさつの項目を掲げていたが、今年度は目標としては設定していない。

《結果の概要》

肯定的回答が93%である。

今後も日々の働きかけ、あいさつ週間の取組等、指導を継続していく。

学校全体の経年変化



《運営に関する計画との関連》

▶ 安心・安全な社会の実現:取組内容④

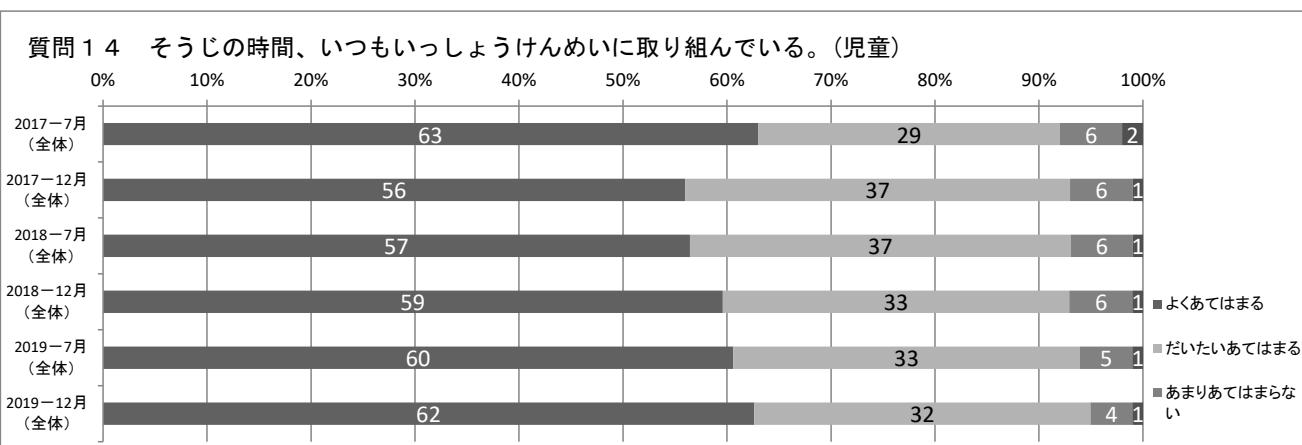
【年度目標】小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【取組】学校のきまりを守ることができる児童を育成する。「児童のやくそく」に則した生活目標と身だしなみ等について、継続した指導を実施する。

【指標】児童の生活について課題を共有できる場を設定し、共通理解を図って継続して指導を行う。児童朝会では教員（輪番制）が気付いたことを伝える。

《結果の概要》

肯定的な回答の割合は92%である。
この校内調査では年度目標を達成している。
今後も指導を継続していく。



《運営に関する計画との関連》

▶ 安心・安全な社会の実現:取組内容⑤

【年度目標】校内調査等の結果から、「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立ちたい」と考える児童の割合を90%以上にする。

【取組】 *直接効果が反省されるような取組は設定していない。

【指標】

《結果の概要》

自己有用感を問う項目である。
肯定的な回答の割合は94%であり、この校内調査結果では、年度目標を達成している。

学校全体の経年変化

